

第4章 Servletからのデータベース操作

これまでのサーブレットでは通常のファイルに永続的なデータを記録していたが、実際には、データベースを利用すると便利な場合が多く、実際に実用的なプログラムの多くがデータベースを利用する。この章では、Java プログラムからデータベースを利用する方法を紹介する。

4.1 JDBC とは

JDBC とは **J**ava **D**ata**B**ase **C**onnectivity の略で、Java からデータベースを利用するための統一インタフェース (API) である。JDBC を利用することにより、利用するデータベースサーバに依存せずにデータベースを利用する Java プログラムを作成することが可能になる。

Oracle, PostgreSQL, MySQL など、ほとんどのメジャーなデータベースサーバは Java から JDBC 経由で利用可能である。

本演習では Servlet から利用するデータベースサーバとして、OpenOffice.org (ver. 2.0 以降) でも採用されている HSQLDB を利用する。HSQLDB は 100% Java で記述された軽量でインストールが容易なデータベースサーバである。なお、他のデータベースサーバを利用する場合も、プログラム自体はほとんど変更する必要はない。

HSQLDB のインストール方法については別ドキュメントで説明する。また、SQL の基本的な書き方など関係データベースそのものに関する事柄は既知のものとして扱う。

4.2 JDBC の利用方法

Java のプログラムからデータベースサーバを利用するためには、通常次のような手順を踏む必要がある。

1. JDBC ドライバのロード
2. データベースサーバへの接続を確立
3. SQL 文の送信
4. SQL 文実行結果の取出し
5. データベースサーバへの接続を切断

次のサーブレットプログラム (DBSelect.java) でこれらを順に説明する。この DBSelect.java は customer というテーブルから "SELECT * FROM customer" という SQL コマンドですべての内容を取り出し、それを単に HTML の表として整形するプログラムである。

まず、java.sql.* を import していることに注意する。JDBC 関係のクラスは主にこのパッケージに定義されている。

ファイル DBSelect.java

```
import java.io.*;
import java.sql.*;
import javax.servlet.http.*;

public class DBSelect extends HttpServlet {
    @Override
    public void doGet(HttpServletRequest request, HttpServletResponse response)
        throws IOException {

        Connection conn = null;

        response.setContentType("text/html; charset=Windows-31J");
        PrintWriter out = response.getWriter();

        out.println("<html><head></head><body>");
        out.println("<table border='true'>");
        out.println("<tr><th>id</th><th>first</th><th>last</th>"
            + "<th>street</th><th>city</th></tr>");

        try {
            Class.forName("org.hsqldb.jdbcDriver"); // JDBC ドライバの登録
            String url = "jdbc:hsqldb:hsqldb://localhost"; // HSQLDB 用の URL
            String user = "sa", password=""; // HSQLDB の既定値
            conn = DriverManager.getConnection(url, user, password); // 接続の確立
            Statement stmt = conn.createStatement();
            ResultSet rs = stmt.executeQuery("SELECT * FROM customer"); // SQL の送信

            while (rs.next()) {
                out.print("<tr>");
                out.print("<td>" + rs.getString("id") + "</td>");
                out.print("<td>" + rs.getString("firstname") + "</td>");
                out.print("<td>" + rs.getString("lastname") + "</td>");
                out.print("<td>" + rs.getString("street") + "</td>");
                out.print("<td>" + rs.getString("city") + "</td>");
                out.print("</tr>");
            }
        } catch (ClassNotFoundException e) {
            out.println("クラスが見つかりません。");
        } catch (SQLException e) {
            out.println("データベース操作中にエラーがありました。");
            out.println("<pre>");
            e.printStackTrace(out);
            out.println("</pre>");
        } finally {
            try {
                if (conn != null) { conn.close(); /* 接続の切断 */ }
            } catch (SQLException e) {}
        }
        out.println("</table>");
        out.println("</body></html>");
        out.close();
    }
}
```

4.2.1 JDBC ドライバのロード

JDBC を利用するプログラムでは、通常、JDBC ドライバ（個々のデータベースサーバにアクセスするための固有のライブラリ）を動的に（つまりプログラム実行時に）ロードする。クラスを動的にロードするためには `Class.forName` というクラスメソッドを使用する。

HSQldb の場合、動的にロードすべきクラス名は `"org.hsqldb.jdbcDriver"` である¹ので、

```
Class.forName("org.hsqldb.jdbcDriver");
```

という呼出しをする。これで、JDBC ドライバがロード・登録され、利用可能な状態になる。

このメソッドは与えられたクラス名に対応する class ファイルを見付けられなかった場合、`ClassNotFoundException` を発生する。そのため `ClassNotFoundException` を catch ブロックで処理している。

4.2.2 接続の確立

次にデータベースサーバとの通信路を確立する。このためには、`DriverManager.getConnection` というクラスメソッドを利用する。このメソッドの第 1 引数は、接続のための URL 表記で、データベースを利用するための JDBC ドライバの種類とデータベースのある場所を示している。ローカルホスト（Servlet コンテナと同一のホスト）で動作している HSQldb サーバにアクセスする場合は、この URL は `"jdbc:hsqldb:hsqldb://localhost"` とする。第 2 引数はユーザ名、第 3 引数はパスワードで、HSQldb の場合、既定値のユーザ名・パスワードはそれぞれ `"sa"` と `""` である。データベースへの接続を表すメソッドの戻り値は `java.sql.Connection` 型であり、以降はこの `Connection` オブジェクトを利用してデータベースを操作する。

参考: データベースへの接続は重い処理なので、サーブレットの場合、プーリングという技法を用いて、一度確立した接続を何度も再利用するのが普通である。この場合、サーブレットの設定ファイルに、JDBC ドライバのクラス名や URL を記述する。本演習ではこの方法の説明は割愛する。

4.2.3 SQL 文の送信と結果の取出し

データベースサーバに SQL 文を送信するためにまず、`java.sql.Statement` クラスのオブジェクトを用意する。この `Statement` オブジェクトは `Connection` オブジェクトの `createStatement` メソッドで生成される。次に `Statement` オブジェクトの `executeQuery` メソッドの引数に SQL の SELECT 文を文字列として渡し、データベースサーバに送信する。データベースサーバでこの SQL 文が実行され、結果が Java のオブジェクトに変換されて Java 側に返される。この `executeQuery` メソッドの戻り値は `java.sql.ResultSet` というクラスのオブジェクトである。

なお、これらのデータベース操作はエラーを起こす可能性がある。データベース操作のときのエラーは、ほとんどの場合 `SQLException` クラスに属するので、catch ブロックでこの例外を処理している。

¹他のデータベースサーバを利用する場合のクラス名は、対応する JDBC ドライバのドキュメントを参照する必要がある。

ResultSet オブジェクトはクエリの結果の表に対応するデータを保持する。ResultSet オブジェクトの next メソッドは現在行を進める。初期状態では現在行は最初の行の前に位置付けられていて、next メソッドの最初の呼出しによって、最初の行が現在行になる。また、これ以上、行がない場合は、next メソッドは false を返す。この ResultSet オブジェクトの getString メソッドを、列名を引数として呼び出すと、現在行の当該の列の内容が String 型として取り出される。この例題の場合、HSQLDB のテストデータ中の customer というテーブルをアクセスする。このテーブルには、id, firstname, lastname, street, city という 5 つの列がある。ResultSet クラスには getString 以外にも getInt など他の型のデータを取り出す getter メソッドが多く存在する。またそれぞれの getter には列を名前 (文字列) ではなく列のインデックス (整数) で指定するバージョンもある。詳しくは java.sql.ResultSet クラスのドキュメント ((*J2SEAPI*)/java/sql/ResultSet.html) を参照すること。

問 4.2.1 `java.sql.PreparedStatement` クラスの使用法を調べよ。

4.2.4 接続の切断

データベースを利用する場合、接続の切断は確実にこなう必要がある。(そうしないとネットワークその他の資源が無駄使いされてしまう可能性がある。) DBSelect.java では切断を確実にこなうために、データベースに関する操作をすべて try ブロックの中で行ない、それに対応する finally ブロック内で接続の切断 (`conn.close()`) を行なっている。

4.3 データベースの更新

次に示す例はデータベースの内容を更新するサープレットの例である。ここでは前節で利用したものと同じ customer テーブルを用い、顧客の住所を変更するサープレットを示す。

このサープレットは次のようなフォームから利用することを想定している。

ファイル DBUpdate.html

```
<html><head></head>
<body>
<form action='DBUpdate' method='POST'>
更新する値を入力してください。<br>
<table border>
<tr><th>列名</th> <th>値</th></tr>
<tr><td>ID</td> <td><input type='text' size='5' name='id'></td></tr>
<tr><td>STREET</td><td><input type='text' size='32' name='street'></td></tr>
<tr><td>CITY</td> <td><input type='text' size='32' name='city'></td></tr>
</table>
<input type='submit' value='送信'>
</form>
</body>
</html>
```

単なるクエリではなく、データベースの内容を書き換える時には `executeQuery` メソッドの代わりに、`executeUpdate` メソッドを用いる。このプログラムでは SQL の UPDATE 文を使っているが、行を挿入する INSERT 文や削除する DELETE 文などを使う場合でも同様に `executeUpdate` メソッドを用い

ファイル DBUpdate.java

```
import java.io.*;
import java.sql.*;
import javax.servlet.http.*;

public class DBUpdate extends HttpServlet {
    @Override
    public void doPost(HttpServletRequest request, HttpServletResponse response)
        throws IOException {

        Connection conn = null;

        response.setContentType("text/html; charset=Windows-31J");
        PrintWriter out = response.getWriter();

        out.println("<html><head></head><body>");

        String id      = request.getParameter("id");
        String street  = request.getParameter("street");
        String city     = request.getParameter("city");

        try {
            String user = "sa", password="";

            Class.forName("org.hsqldb.jdbcDriver");
            String url = "jdbc:hsqldb:hsqldb://localhost";
            conn = DriverManager.getConnection(url, user, password);
            Statement stmt = conn.createStatement();
            stmt.executeUpdate("UPDATE customer SET street = '"+street
                +"', city = '"+city+"' WHERE id = "+id);

            out.println("テーブルを更新しました。 <br>");
            out.println("id="+id+", street='"+street+"', city='"+city+"'");
        } catch (ClassNotFoundException e) {
            out.println("クラスが見つかりません。");
        } catch (SQLException e) {
            out.println("テーブルの更新に失敗しました。");
            out.println("<pre>");
            e.printStackTrace(out);
            out.println("</pre>");
        } finally {
            try {
                if (conn != null) { conn.close(); }
            } catch (SQLException e) {}
        }
        out.println("</body></html>");
        out.close();
    }
}
```

る。executeUpdate メソッドは実行した SQL が対象とした行数を戻り値とする (ただし DBUpdate.java ではこの戻り値は利用していない)。それまでのデータベースへ接続する部分などは、DBSelect.java とまったく変わらない。

このサーブレットはデータベースを操作したあと、「テーブルを更新しました」というメッセージと更新内容 (失敗したときは「テーブルの更新に失敗しました」というメッセージ) を表示する。

問 4.3.1 X 国では *price* が単価 15 以上のものに対して 10% の間接税がかかるという。HSQLDB のテストデータの中の *product* テーブルの *price* は税抜の単価を示すものとする。*product* テーブルの内容を X 国での間接税を加えた値段を表に成形して出力するサーブレットを作成せよ。

(当然、データベース中のデータは変更してはいけない。)

問 4.3.2 HSQLDB のテストデータの中の *customer* テーブルに対して、既存の顧客のデータを変更するだけでなく、新規の顧客を追加する / 顧客を削除することも可能な入力用の HTML ページと処理用のサーブレットを作成せよ。

キーワード:

JDBC, Class.forName メソッド, DriverManager.getConnection メソッド, Connection クラス, createStatement メソッド, Statement クラス, executeQuery メソッド, executeUpdate メソッド, ResultSet クラス, next メソッド, getString メソッド,